

事務事業名	新型コロナウイルスワクチン接種対策事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康推進課 ワクチン接種対策室	
総合計画体系	政策名	〈Ⅲ〉支えあい健やかに暮らせるまち〈保健・医療・福祉〉		所属G	ワクチン接種対策G	
	施策名	〈20〉健康づくりの推進		課長名	村松 優	
	目的対象	市民	意図	心身ともに健康で暮らす。	電話番号	0854-40-1043 (内線) 2173
	基本事業	〈058〉病気の早期発見と重症化予防・感染症の予防		担当者名	宇田川 泰行	
目的対象	市民	意図	病気を早期に発見し、重症化を予防する。感染症を予防する。	会計	0:1:2:0:0:2	
				款	0:2	
				大事業名	保健予防事業	
				中事業名	新型コロナウイルスワクチン接種対策事業	
				科目	0:5:2:0:0:6	

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
市民	新型コロナウイルスワクチン接種ができるよう市で体制を構築することで、接種を希望する対象者が接種を受けることができる。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 □ 単年度のみ □ 単年度繰返 ( 年度 ~ ) ■ 期間限定複数年度 ( R2 年度 ~ R5 年度 )	予防接種法に基づいて市が実施する国の新型コロナウイルスワクチン接種の支弁事業で新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と重症化予防を目的として実施される。市は実施主体として市民に対して接種体制を構築して接種を推進し、国がその費用を負担する。R3.2から初回接種、R3.12から追加接種、R4.3から小児接種を実施し、継続中。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R4年度実績(R4年度に行った主な活動) 新型コロナウイルスワクチン接種 初回接種(1・2回目)、追加接種(3回目)、追加接種(4回目)、小児接種(1・2回目)、乳幼児接種(1・2・3回目)	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) R3: 集団接種を主体としてアスバル駐車場に設けた特設会場と各町の交流センター、雲南市立病院ロビーを使うなどして接種を実施。市医師会の協力を得ながら進めた。 R4: R3中途から医師会医師の集団接種への応援から自院での個別接種をお願いし、被接種者の利便の向上と接種能力の拡大を図った。被災したアスバル特設会場を廃止し、医療スタッフの確保しやすい雲南市立病院第3駐車場に特設会場を建設し、さらなる効率化を図った。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(計画)
ア 乳幼児(初回①②)③除く	%	-	-	4.5	5.0
イ 小児(初回①②)	%	-	0.0	28.3	35.0
ウ 全体(初回①②)	%	-	86.0	84.4	84.0
エ 2価ワクチン接種	%	-	0.0	54.8	65.0

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R4年度決算)		② コストの推移		単位	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(計画)
報償費	4,940千円	財源内訳	国庫支出金	千円	0	140,257	157,802	379,862
需用費	535千円		県支出金	千円				
役務費	4,197千円		地方債	千円				
委託料	135,718千円		その他	千円		881	206	
使用料及び賃借料	12,619千円		一般財源	千円			1	
【財源】新型コロナウイルスワクチン接種対策費負担金		事業費計		千円	0	141,138	158,009	379,862

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	初回接種: 事業の遅延なく開始した。計画上の目標としていた集団免疫の獲得できる接種率70%を大きく超える87%を達成した。 追加接種: 事業の遅延なく開始した。初回接種を下回る予想をしていたが、概ね同水準の接種率を達成した。 小児接種: 事業の遅延なく開始した。新型コロナウイルス感染症が子供では重篤な症状をあまり示さないということもあり、接種目標に対して低い接種率となった。
② 事業実施するうえでの課題	国からの安定したワクチン供給が受けられず、接種を一時見合わせたこともあったほか、供給されるワクチンの種類が偏ったり、期限が半年程度の残り少ないものが供給されたりするために、長期安定した接種計画が立てにくい。唐突な接種対象の拡大や追加接種の決定による計画の大幅な変更や体制の見直しが度々あり、計画推進に大きく影響した。 個別接種による接種体制が不足しており、集団接種による接種能力の確保が必要不可欠となっている。長期的には個別接種だけで接種ができるような体制づくりが必要である。
③ 課題解決に向けた改革改善等	国の長期的な接種計画に基づく実施とワクチンの安定供給が求められる。 個別接種による接種体制の構築については、今後の大きな課題として取り組みが必要である。